

ロックバンド
T-BOLAN

森友嵐士

府中は変えられない
唯一無二の場所



復興ライブが決定するまで
7月に西日本豪雨災害があり、テレビのニュースではある程度状況を知っていた森友さん。心配で家族や友達にすぐ連絡をとったそうです。幸いにも、他の場所と比べれば被害は少なかったのですが、災害は多くの人に大きな傷を与えました。地元府中を思う森友さんのライブの実現は、小野市長との出会いがきっかけで

した。初めての出会いは、府中高校の100周年の集いの場でした。その後、8月に府中に帰省したときに、市長と再度会談し、今の府中市の現状とここから未来に向けて何をやっていくのか、どうなるのかをじっくり話をする時間を持ちました。市長からも、「地元府中市のために、今後も協力してほしい」「ぜひ、府中でライブをやってほしい」と言われ、歌を歌うことであれば、本業なので、「よし、やろう！」となって実現しました。府中市でのライブは90年代に、T-BOLANで府中市文化センターで行ってから25年ぶりになります。

○森友さんにとって、地元府中とはどんな場所ですか。自然が豊かで、僕にとってゼロの原点の場所。高校卒業まで生活していた場所で、20代でバンドを始めて、声が出なくなったり、リハビリの考え方を決めたり、動き出す一番最初のきっかけになったのは府中だった。時折戻ってくることでい로운な自分の好きだったことや自分の中にあるもの思い出すんだよ。僕にとつての宝物がたくさんあるまちなんだよね。生まれて半世紀過ぎた今、何かしら恩返しをしたい。今までもらってばかりだったし。数年前に国府跡が見つかって、国の史跡にも指定されたのをみんなも知ってるのかな。国府跡は魅力的で、神秘的で、自分のまちのルーツがそんな時代にあったんだと聞いたとき、フツと「府中って、ロマンがあるなあ」って思って、府中ロマン！っていう言葉が浮か

んできた。府中のロマンを、これから府中で育っていく子どもたちに知ってもらって、府中を好きになってほしい！府中にいる大人のみなさんに、まちを盛り上げる力にしてほしい！僕も微力だけど、そんな人たちの力になっていきたいと思っています。

○府中の好きなところはどこですか。

いっぱいあるけど、空かなあ。歌詞の中にも空がよく出てきて、このまちの空



復興コンサートは約1,000人のファンが詰め掛けた

が印象的だったからかも。いろいろなと煮詰まっているときや迷っているときに床に寝転んで、窓枠が空だけになったときに、ふと府中を思い出すんだよ。山並みがあって、空が大きく広がっていて、関東とは全く別もので。子どものころには空が大きいとは気付かなかつたよ。このまちで育って、それが日常で、普通だったからね。僕の子どものころは、子どもも多かったし、土曜夜店や三郎の滝、河佐峡、七つ池で友だちと一緒に遊んで自然の中で遊んでいた。だけど今は、子どもたちが減って、昔の賑わいがないようになってきていることが寂しい。いろんなことを子どもたちに体験させてあげて、それが大人になってから、かけがえのないものだと思付くときが来る。でも、それが外に出ないと良さに気付かないこともあるんだよ。このまちに生まれたんだから、このまちの宝をつかんで、未来の力に変えていってほしいな。